



Chinese Philosophy

中国哲学専修

中国哲学は、かつては漢学、漢文学ないし支那学という名前で呼ばれていましたが、戦後、新制大学の制度に叶うように、漢文学のうち、思想研究に特化して立てられた学問分野です。

中国哲学は、哲学のローカル版・地域版ではありません。哲学・思想は、地域的であると同時に普遍的であり、その普遍性はだいたいのところ、「知」というものが地域間を相互に流れあっている中に形成されます。長い間、文字（漢字）を共有してきた漢字文化圏（中国・日本・朝鮮半島・ベトナム）の精神文化、さらには人間存在の根底に流れるモノの考え方や感じ方を「そもそもの観点」から探る、「中国哲学」という一つの固有の学問なのです。

本専修では、漢文（中国語ではない）の原典を通じて、中国の思想・科学・宗教・文化・芸術などの諸事象を学びます。大学というところは、スーパーの切り身魚でない本物の生きた魚を味わうところ。切り取られた知識、他人に味付けされた知識の表層を嘗めるだけでは自分の知識とはいえません。手つかずの「原典の海」へ足を運び、自らの手で獲った知識こそ、本物の「知」となり自身の「哲学」となります。それは一生失われることのない確かな宝物なのです。本専修では、そのための海の泳ぎ方、魚の釣り方を学びます。漢文アレルギーがなければ、誰でも学べます。一緒に原典の海へ行って本物の魚を捕ってみませんか。

教員

しん・ひよん
辛賢 教授

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/>

何を学んでいるの？

中国哲学演習

漢文の原典資料を精読します。先秦の諸子百家から明清に至るまでの幅広い時代の原典を取りあげます。原典の読解には、辞書を引くだけでは読み解けない問題がたくさんあります。そのため資料の扱い方や調べ方などの方法論を学び、訓練します。

中国哲学講義——神仙思想と死生観

老いや死に対する恐怖から永遠の生命を求める人間の願望は、中国において神仙術と呼ばれる宗教思想、そして医学を形成していきました。本講義では神仙思想にまつわる様々な資料を取りあげ、中国思想史における身体観・死生観について解説します。

どんな授業があるの？

[講義題目]

中国哲学とヨーロッパの哲学者
宋代の思想文化
易のはなし：占いと科学
中国の神仙思想と死生観：
不老不死への道

[演習題目]

中国哲学演習
漢籍資料学演習
中国文献学演習Ⅰ・Ⅱ
論文作成演習

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

宋代における『周易参同契』解釈の変遷

『周易参同契』は、後漢時代の道士、魏伯陽が不老長生の秘法を伝えた著述です。卒論では、のちの唐代から宋代にかけて作られた多様な注釈を比較・検討し、解釈史・思想史の変遷を浮き彫りにしています。（選：辛賢 教授）

[卒業論文題目]

中国古代における遇不遇論
古代中国の音楽思想
『儀礼』喪服経伝への鄭玄注に就いて
藤澤東咳『辨非物』にみる泊園学の思想的特徴

漢文の読解、その意義の考察が主たる学習となります。

学生インタビュー

この研究室を選んだきっかけは？

自分はもともと西洋哲学に関心がありましたが、明清期に中国古典が翻訳されて西洋に伝わるなかで、中国哲学の情報が西洋哲学に影響を与えたという話を知り、その過程に強く興味を持ちました。翻訳を通じて中国と西洋の思想がどのように交錯したのかを深く学び、比較研究を行いたいと考え、この研究室を選びました。

研究室ではどんなことをしますか？

漢文資料の精読を行う演習授業が中心です。実際に自分の手足を動かして、図書館や研究室の様々な資料にあたり、自力で漢文を読解していくという作業は、根気がいりますが、

やり切ったときには計り知れない達成感を与えてくれます。日常的に用いている漢字の意外な意味や、現代にも通用する中国古典の概念を知れることも多く、常に気づきのある環境です。また、先生や先輩のサポートも手厚く、自分でも授業についていくことができています。

研究室に入ってよかったことは？

研究室に所属している学生の数が少ないので、使いたい時に自由に研究室を利用することができます。また、先生や先輩との距離も近いため、質問や相談が気軽にできる点も魅力です。研究室には中国哲学に関する多くの資料や文献が揃っており、本

格的な文献の精読に取り組むことのできる環境が整っています。この研究室では、少人数ならではの細やかな指導を受けながら、より詳細で踏み込んだ学びに挑戦することができます。

先輩の皆さんに一言

西洋哲学や倫理学など他の学問分野に、意外にも中国哲学が影響しているということがあります。このような視点から思想について検討してみるとという研究も存在するので、あまり視野を狭めることなく、ぜひ多くの方々に中国哲学に目を向けてもらいたいと思います。

[インタビュー協力] 佐竹亮弥さん(3年)



研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



『知のユーラシア4 宇宙を駆ける知——天文・易・道教』
堀池信夫・辛賢：編著
明治書院／2014

東洋・中東・西洋を帯状に貫流・交錯するユーラシアの知の世界をコンセプトに企画されたシリーズ『知のユーラシア』(1～5)の第4巻。中国の思想・宗教・科学が融合する世界観を論じています。大学1～2年生の教養的知識から専門的先端への架け橋となれるように平易に解説しています。



新書漢文大系40『易経』
今井宇三郎：著／辛賢：編
明治書院／2019

「当たるも八卦、当たらぬも八卦」の「八卦」の由来であり、五經の一である『易経』を平易に解説した入門書です。『易経』は中国思想を学ぶうえで欠かすことのできない文献ですが、『易経』を読むための基本義の解説、本文の書き下し文、現代語訳、用語説明を丁寧にを行っています。